



写真3 2週間後の薬剤を塗布していないスギ材
(カビが生え始めている)



写真4 約3ヵ月後のスギ材
左：薬剤なし 右：DDAC塗布



写真5 約3ヵ月後のヒノキ材
左：薬剤なし 右：DDAC塗布



写真6 約1年2ヶ月後のスギ材
左：薬剤なし 右：DDAC塗布



写真7 約1年2ヶ月後のヒノキ材
左：薬剤なし 右：DDAC塗布

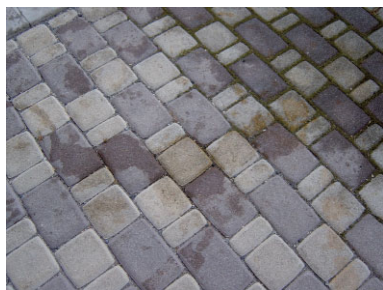


写真9 DDACによるコンクリートの着色





写真2 四耳壺頸部破片の出土状況
(京都市埋蔵文化財研究所)



写真5 本遺跡出土四耳壺と漆塗料の垂下状態



写真6-1 漆塗料の付着状態(1)



写真6-2 漆塗料の付着状態(2)



写真7-1 本試料におけるちぢみムラの状況



写真7-2 一般的な日本産漆のちぢみムラの状況



写真10 本試料(黒色系漆塗料)の塗膜断面に
観察される樹皮かす等の不純物(100倍)



写真11 頸部付着の本試料(黒色系漆塗料)の
塗膜断面に観察される塗り重なり状態(500倍)



写真1 元興寺極楽坊（本堂・禅室）の現況



写真3 元興寺五重小塔

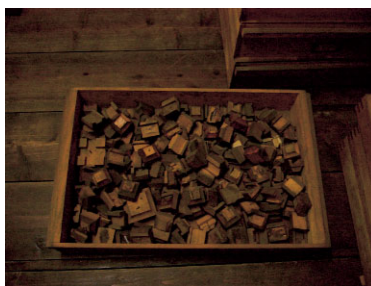
写真4-1 五重小塔取り外し部材の
現況(1)(元興寺総合収蔵庫所蔵)写真4-2 五重小塔取り外し部材の
現況(2)(元興寺総合収蔵庫所蔵)写真5 試料No.3, 9, 11の奈良時代当初材
材のベンガラ塗装の状態写真6 試料No.19, 20の奈良時代当初材
である大斗の外観塗装の状態写真7 試料No.21の奈良時代当初材で
ある壁板材の外観塗装の状態写真8 試料No.28, 29の江戸時代後補部
材である巻斗のベンガラ塗装の
状態



写真9 試料No.27の江戸時代後補部材である地垂の鉛丹顔料の付着状態



写真10 試料No.33, 34の明治以降後補部材である巻斗のベンガラ塗装の状態

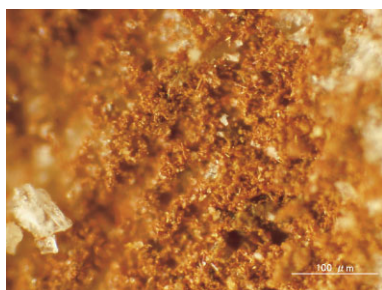


写真11 奈良時代当初材に外観塗装されたパイプ状ベンガラの集合状態

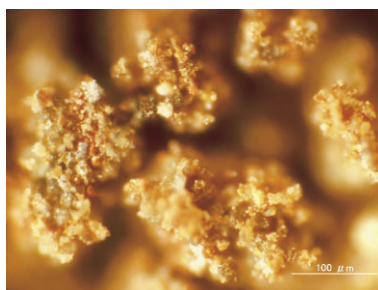


写真12 江戸時代後補部材である巻斗に外観塗装された泥絵具+鉛丹顔料

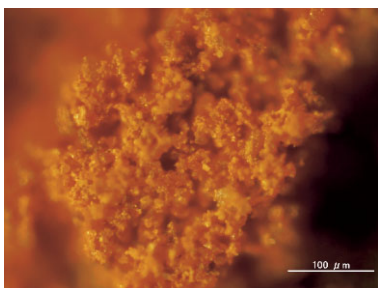


写真13-1 試料No.27の江戸時代後補部材である地垂に付着した鉛丹顔料の集合状態

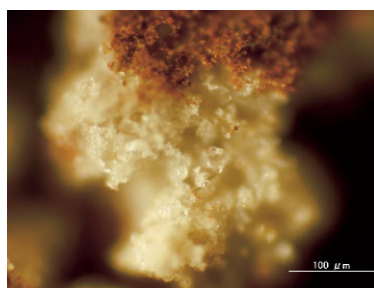


写真18-1 試料No.23の奈良時代当初材である大斗の中層に観察される白色顔料（火山灰）の集合状態



写真1 BMM063の表面状態の実体顕微鏡像



写真2 通常光源下におけるクロスセクション像

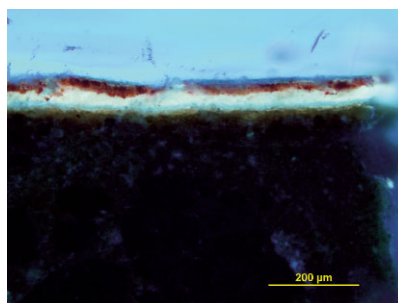


写真2 同視野の紫外線蛍光像

パーミヤーン仏教壁画の材質分析(3)ーガスクロマトグラフィー／質量分析法を使用した有機物の分析:B(d)窟ー
P79 — P87

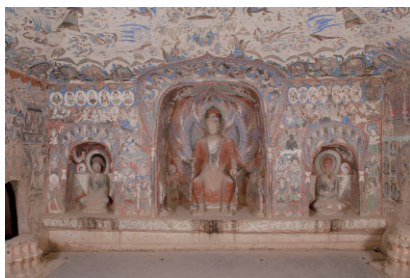


写真1 敦煌莫高窟第285窟西壁の正常光写真



写真2 敦煌莫高窟第285窟南壁の正常光写真

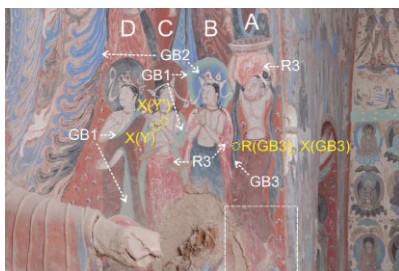


写真3 正龕北側内壁の正常光写真

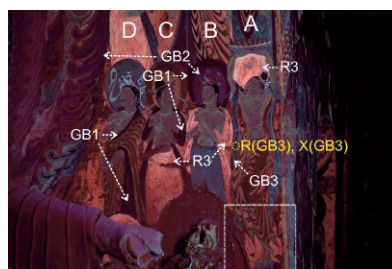


写真4 正龕北側内壁の紫外線蛍光写真

敦煌莫高窟第285窟壁画に使用された彩色材料の非接触分析

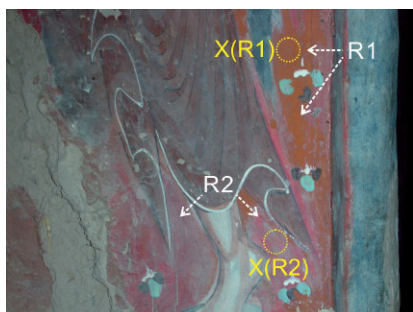


写真5 正龕内壁の赤色を呈する背景

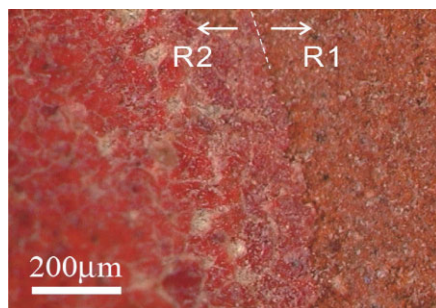


写真6 R1およびR2の顕微鏡写真

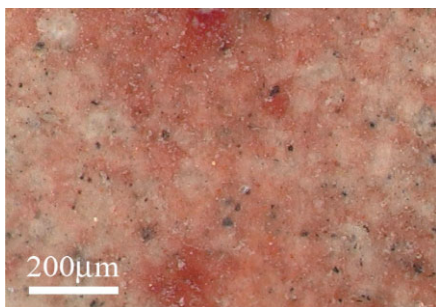


写真7 R3の顕微鏡写真

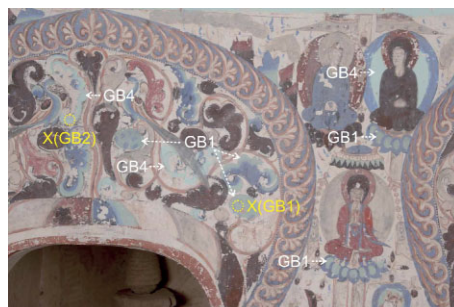


写真8 北壁の正常光写真

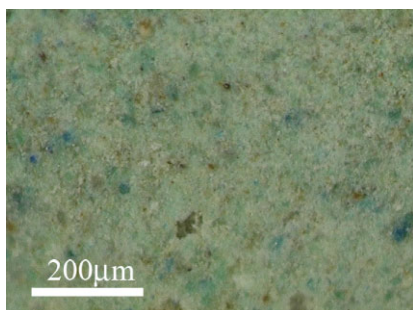


写真9 GB1の顕微鏡写真

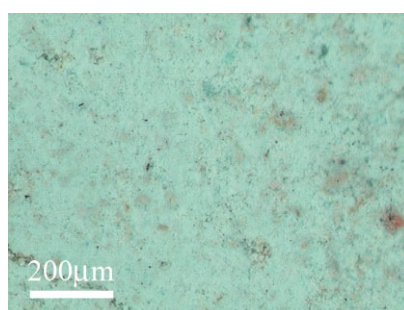


写真10 GB4の顕微鏡写真

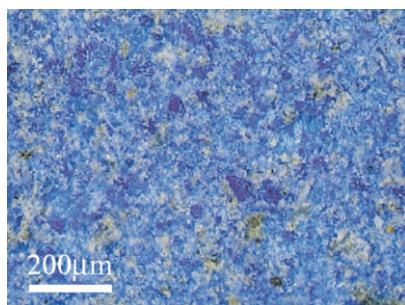


写真11 GB2の顕微鏡写真

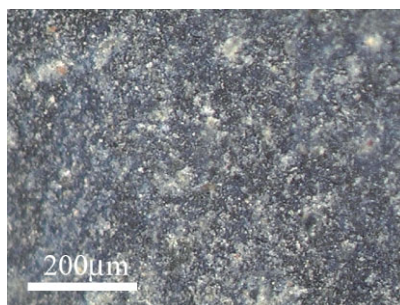


写真12 GB3の顕微鏡写真



写真13 菩薩Cの腕釧

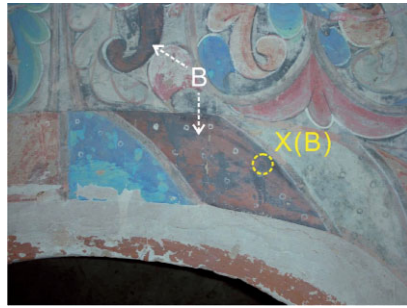


写真14 南壁龕楣にみられる褐～黒色を呈する装飾文様

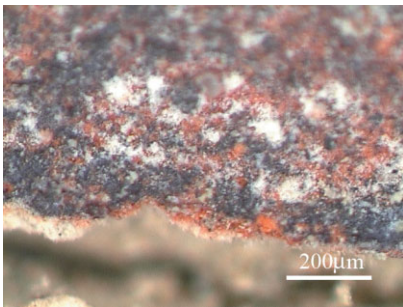


写真15 Gの顕微鏡写真

敦煌莫高窟第285窟壁画に使用された彩色材料の非接触分析

P89 — P101

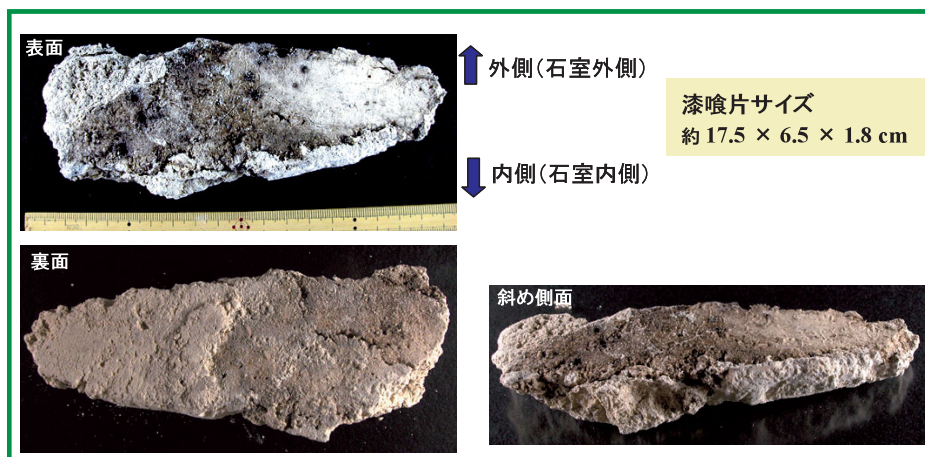


写真1 高松塚古墳 147次 5ALI 西側石3 南小口上半漆喰 070510 (試料No. T7510-1)
試料全体像 (国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策検討会 (第9回) 資料3-6³⁾より)

高松塚古墳発掘・解体作業に伴う生物調査の概要について

P121 — P128



写真2 東3石北小口（2007年4月17日）（左），天井石4を外した後（2007年4月10日）（中央），西3石北小口（2007年4月17日）（右）



写真3 西2石北小口（2007年5月10日）



写真4 天井石1を外した後（2007年5月30日）



写真5 西3石（西女子群像）上面小口（2007年4月25日）



写真6 南壁と東1石の接合部の漆喰を外した後（2007年6月11日）



写真7 床4石解体後（2007年8月20日）



写真8 エタノールによる汚染面の消毒
（2007年5月17日）



写真9 東2石（青龍）を外した後、壁石間に付着していた土の中から出てきたムカデ（2007年6月7日）



写真10 地震痕跡の亀裂の例（2007年8月20日）

高松塚古墳発掘・解体作業に伴う生物調査の概要について

P121 — P128



写真1 天井の漆喰表面に発生したカビの例（2007年7月24日）



写真2 天井部の青黒い着色（2007年8月10日）
（写真提供：川野邊渉）

キトラ古墳の微生物等の状況報告（2007）

P129 — P134



写真3 天井部の褐色の着色（2007年8月10日）
（写真提供：川野邊渉）

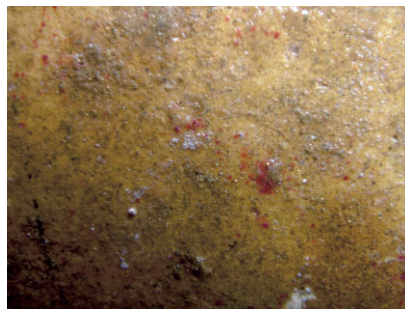


写真4 壁面の赤い着色（2007年5月4日）

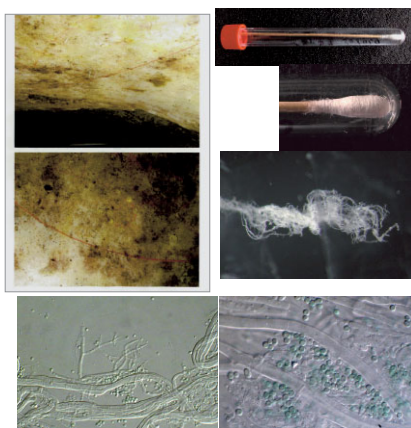


写真5 キトラ古墳石室内 天井「ち」天井からぶら下がっている白い菌糸の塊（K7905-1）の試料採取箇所（左上）（写真提供：文化庁）、試料全体像（右上）および光学顕微鏡観察像（下）（写真提供：杉山純多博士）

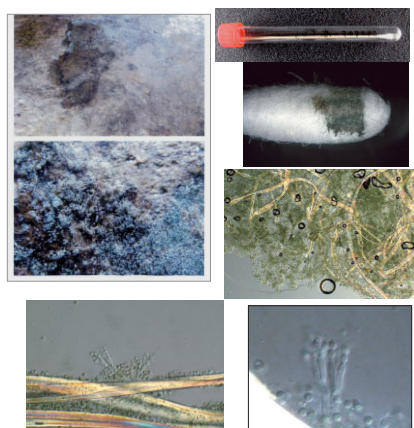


写真6 キトラ古墳石室内 床「し」緑色に大発生したカビ（K7905-2）の試料採取箇所（左上）（写真提供：文化庁）、試料全体像（右上）および光学顕微鏡観察像（下）（写真提供：杉山純多博士）

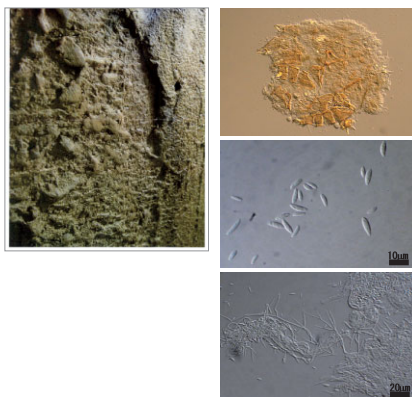
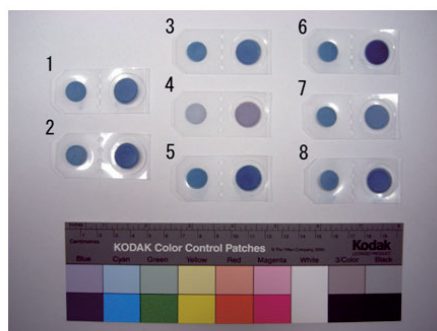


写真7 キトラ古墳石室内 西壁南側「む」泥上の白い突起物（K7906-2）の試料採取箇所（左上）（写真提供：文化庁）、試料全体像（右上）および光学顕微鏡観察像（下）（写真提供：杉山純多博士）



1. 事務室 2. ロビー 3. 展示室 4. 覗きケース 5. 収蔵庫前室
6. 収蔵庫 7. 収蔵庫内 引き戸つき試料櫃 8. 旧事務室

写真 2 ジクロロボス蒸散殺虫剤使用歴のある文化財保存施設における「アグリスクリーンチケッ」による気中ジクロロボス検出試験の結果。濾紙フィルター（左側の円形物）の発色からジクロロボスの存在を判定する。覗きケースのみが発色せず、ジクロロボスが残留していると判定した。

文化財保存施設におけるジクロロボス蒸散殺虫剤の使用について

P209 — P217



写真16 補彩前



写真17 補彩後

重要文化財八窓庵中柱の修復

P219 — P226



写真 1 I窟右繞道でのエッジング作業



写真 2 I窟右繞道 エッジング処置後

パーミヤーン仏教壁画の保存修復（3）－I窟およびN(a)窟における保存修復－

P227 — P233



写真3 I窟坐仏龕に流れ込む泥水



写真4 モルタル製の庇



写真5 I窟坐仏龕前面の大規模な亀裂



写真6 トンネル内に設けられた排水溝

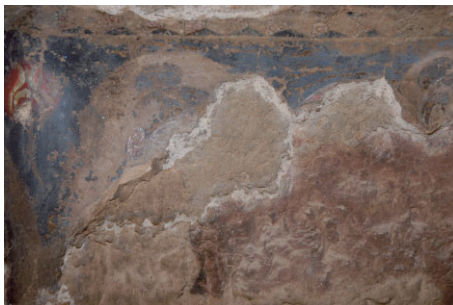


写真7 N(a)窟 エッジング処置後



写真8 N(a)窟 薄い壁土の下から現れた細かいうろこ状に亀裂を生じた絵具層



写真9 後世の壁土の下から現れた図像